5 働き方改革の推進

多摩市では、「学校における働き方改革推進プラン」を策定し、教員一人一人が子どもたちと向き合う時間を大切にしてもらえるよう学校の職務環境の整備に努めています。

また、教員の負担軽減のため、学校事務職員と連携し、事務分担の見直しなど、業務改善に取り組んでいます。

〇学校支援スタッフの配置

スクール・サポート・スタッフや部活動指導員、教育活動指導員（ピアティーチャー）を全校に配置しています。

〇出退勤記録による在校時間の管理

従来の出勤簿をなくし、ＩＣカードの打刻に基づいた出退勤システムで作成する出勤簿に一本化しました。毎月の勤務状況として出退勤時間も確認でき押印も月１回となります。

〇校務支援システムによる事務処理

教員間の連絡や情報共有、成績処理などを校務支援システム（Ｃ４th（シーフォース））で行うことができます。

〇市内公営・民営プールを活用した水泳授業

市内にある民間・公的機関の３つのプールを活用し、教員と専門スタッフがチームで行う水泳授業を小学校全校で実施しています。

多摩市の魅力　Ｑ＆Ａ

Ｑ１　多摩市はどんなまちですか？

A　多摩市は、緑豊かな丘陵地に囲まれた「東京のベットタウン」です。令和３年11月に市制施行50周年を迎えました。

Ｑ２　多摩市への通勤のアクセスは便利ですか？

A　市内には小田急多摩線、京王線、京王相模原線、多摩都市モノレールの４路線が乗り入れており、都心からのアクセスも良好です。

Ｑ３　多摩市はどんなまちづくりを進めているのですか？

A　誰もが幸せを実感できる「健幸都市」（スマートウェルネスシティ）を目指し、持続可能なまちづくりを推進しています。

将来都市像「つながり　支え　認め合い　いきいきと　かがやけるまち　多摩」

あなたも チーム多摩 の一員に

令和７年度
多摩市教育委員会
教員公募資料

2025

多摩市教育委員会では、学校・家庭・地域の連携の下、子どもたちの生きる力を育む教育活動に尽力しています。特に「2050年の大人づくり」を合言葉に推進してきたESD（Education for Sustainable Development　持続可能な開発のための教育）は16年目を迎え、各学校の特色あるESDの取組は、現行の学習指導要領に示された「持続可能な社会の創り手」の育成に資するものと考えています。

今後も多摩市では、子どもたちの健康と安全を考慮しつつ、学びと成長を支え続けるために、SDGs（持続可能な開発目標）の基本理念「誰一人取り残さない」を踏まえ、不登校対策や特別支援教育の推進をはじめとする教育活動の充実を図っていきます。

多摩市の教育施策にご賛同いただける先生方の応募を心よりお待ちしております。

多摩市教育委員会　教育長　千葉　正法

多摩市が目指す教育

多摩市では、すべての子どもたちが知性、感性、徳性を高め、心身ともに健やかな市民として成長し、生きる力が育まれることを願い、次のような人間を育てる教育を重視します。

○ 自ら意欲的に学び、考え、表現し、行動する力をもち、個性と創造性豊かな人間
○ 互いの人格と多様性を尊重し、思いやりと規範意識をもって他者と協働し、地域や国際社会に貢献しようとする社会性豊かな人間
○ 心身ともに健やかで、健康的な生活習慣を重んじる人間

多摩市が求める教師像

☑ ＥＳＤの理念に基づく教育施策に賛同していただける先生
☑ 専門教科の実践研究に実績があり、授業を大切にする先生
☑ 特別支援教育に理解と実績があり、意欲の高い先生
☑ 不登校やいじめ等の教育課題に真摯に向き合い、関係機関と連携し、寄り添いながら児童・生徒及びその保護者と関係を構築できる先生
☑ 教育管理職を目指し、これからの学校をつくっていこうとする先生

1 ＥＳＤの充実・発展

現在、世界には、国連が定めた持続可能な開発目標（SDGs）にあるとおり、環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な問題があります。ESD とは、これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え身近なところから取り組む（Think globally, Act locally）ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そして、持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。

多摩市では、全小・中学校が ESD の推進拠点である「ユネスコスクール」に登録され、ESD カレンダーを作成して生活科や総合的な学習の時間を活用した特色ある教育活動を展開しています。また、毎年 ESD のまとめとして「子どもみらい会議」を開催し、各学校の取組を発表し合うとともに、小・中学生がテーマに沿った話し合いをし、市民へメッセージを発信しています。

2 基礎学力の向上と英語教育の推進

令和６年度の多摩市立小・中学校の全国学力・学習状況調査の結果では、国語・算数／数学・中学校英語ともに国の平均正答率を上回る数値で、概ね良好でした。

多摩市では、市内の企業（Benesse）と連携し「日本一英語を話すことのできる児童・生徒の育成」をスローガンに英語教育を推進しています。中学校では、「話す力」の向上を目指してオンライン英会話や英語４技能検定（GTEC）に取り組んでいます。また、市主催の英語教育研修では小・中学校合同で研修を実施するとともに、ALT 派遣元の企業と連携しながら研修内容の充実を図っています。このような取組から、多摩市の中学校３年生の CEFR A1（英検３級相当）以上の割合は 90%を超え、高いレベルにあります。

今後、基礎学力を一層確実に育成するために、一人１台のタブレット端末や、各教室の電子黒板等の ICT 機器を活用し、新しい時代の学びに向けた学習活動の充実と子どもたち一人一人の学びの最適化に取り組んでいきます。

3 特別支援教育の推進

多摩市立小・中学校では、第二次多摩市特別支援教育推進計画（令和２年１２月策定）の理念「障害の有無にかかわらず、誰もが地域や学校などで共に支え合って暮らす『共生社会』の実現を目指す」を踏まえて、一人一人の子どもの能力を最大限に伸長し子どもたちに社会的自立を図ることのできる力や地域の一員として生きていくための力を培うよう取り組んでいます。

特別支援学級として、知的障害学級（固定学級：小学校３校、中学校３校）、自閉症・情緒障害学級（固定学級：小学校４校、中学校２校　※令和８年度に中学校１校新設）、難聴通級指導学級・言語障害通級指導学級（小学校１校）を設置しています。

また、小・中学校全校に特別支援教室を設置しており、支援が必要な子どもを取り巻く環境を整え、一人一人の成長に寄与する特別支援教育の実現に取り組んでいます。

さらに、初めて特別支援学級や特別支援教室を担当する教員の指導力向上を目的とした実践的な研修を実施するなど、市をあげて特別支援教育に力を注いでいます。

4 不登校対策

多摩市立小・中学校において、近年、不登校の出現率は増加傾向にあり、その欠席日数も長期化しています。こうした状況を踏まえ、「不登校はどの子どもにも起こり得る」との認識の下に、多摩市では不登校総合対策を令和２年１１月に策定しました。各校は不登校総合対策に基づき、児童・生徒の個々の状況に応じた支援を行っています。

また、東京都の事業を活用し、不登校生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、ゆとりある生活時程の中で、実態に応じた支援を行うチャレンジクラス「あたごSpace」（不登校対応校内分教室）を令和６年４月に中学校１校に設置しました。

【主な不登校対策】

○ 不登校総合対策の策定（令和７年度改訂）
○ 多摩市フレキシスクール Online（仮想空間／ﾊﾞｰﾁｬﾙ･ﾗｰﾆﾝｸﾞ･ﾌﾟﾗｯﾄﾌｫｰﾑ）を活用した支援
○ 中学校「学びの多様化学校」の設置の検討

4 質の高い教育をみんなに
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS